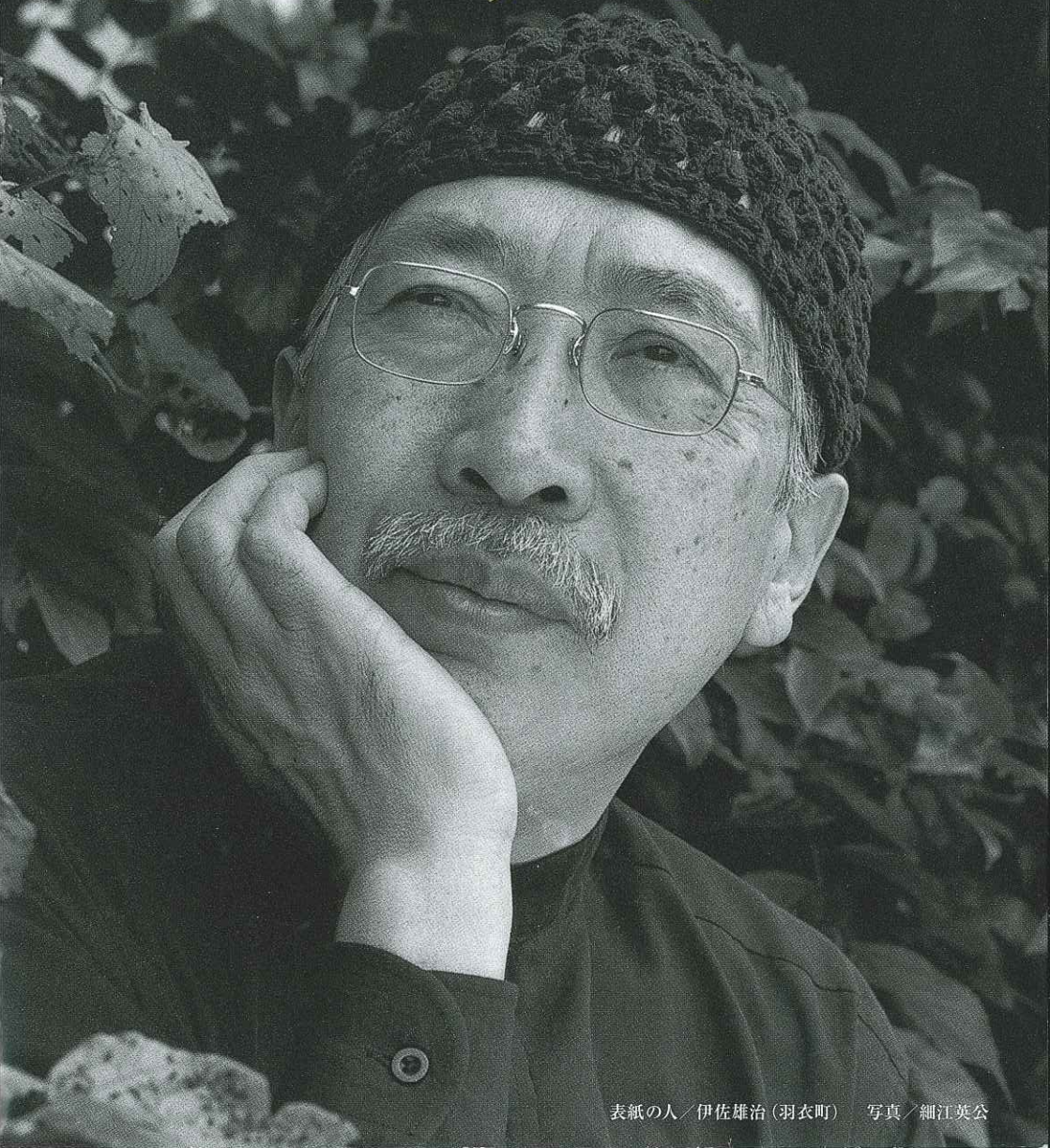


# 文で味

10

立川と語ろう 立川に生きよう  
October 2003  
écoutez bien Vol.22 No.227







川は多くの生きものを育む。  
葦やガマの生い茂る水辺は魚やエビ、昆虫の産卵場となる揺りかご。  
人と多摩川がふれあう場所でもある。

# 生きものの揺りかご

## 水辺の遊び、再び

※「あきしま水辺の楽校」の記事は  
多摩てぼネットでもご覧いただけます。  
<http://www.tamatebako-net.ne.jp/tamake/tamake0308.html>



人工的な護岸や堤防で人と切り離されてきた多摩川のような大規模河川に、自然の水辺を取り戻す試みが行われている。昭島市のJR八高線鉄橋近くの多摩川河川敷にこのほどオープンした「あきしま水辺の楽校」は、国土交通省のきもいりで作られたく自然にふれて遊びながら自然を学ぶ施設。

河川敷を掘り込んだ入り江や葦などが生える湿地が作られ、周りの自然にも影響が少ないように木道も設けられた。昭島市や地元の自然愛好家などが協力して運営し、7月19日行われた第1回のプログラムは子どもを対象にした水辺の生きもの探し。昭島堰周辺で川エビやアブラハヤ、シマドジョウなどをつかまえ、伝統的な投網漁も披露された。

完成して間もない入り江や湿地はまだ人工の匂いを残しているが、早くもトンボがたくさん産卵している。やがて自然の揺りかごになってくれるだろう。一方では、川周辺の開発が進んだり、川沿いの池にブラックバスやカミツキガメなどの外来生物が放されたりもしている。豊かな水辺を取り戻す道は平坦ではない。



親子で網を入れ、川生きものを探す



深い入り江の掘られた「水辺の楽校」



鮎などを捕る伝統的な投網漁の実演



# しろうとだから見えるアイディアがある



於：立川市錦町・吉田企画

**芳賀** こちらの事務所にうかがって驚いたんですが、壁にかかっているたくさんさんの絵は全部「3原色はり絵」の作品？

**吉田** そうです。黒色を含めてたった4色のカラーシートで描いてあります。それも絵の専門家ではなく、みな家庭の主婦やお子さん、お年寄りらが描いた絵ばかりなんですよ。

**芳賀** へーっ。誰でもこんな素晴らしい絵が描けるんですか。これは驚きですね……。ところで「3原色はり絵」というのは東京都知事賞までいただきましたが、わかりやすくいうとどういふものなんですか？

**吉田** 実はどんな色を混ぜても絶対にできない色があるんです。それは赤紫(マゼンタ)、青(シアン)、黄(イエロー)の3色。ところがこの3色さえあれば、逆にどんな色もできるんですよ。

「3原色の原理」といいますが、その原理に基づいて3色のカラーシートを画材として商品化したということです。

**芳賀** そうすると、この3色のシートが従来の絵の具にとって代わる可能性もある？

**吉田** かもしれませんね。シート裏にノリがついていて、ハサミで切って貼るだけで絵が描けるので、絵の具より便利かもしれません。しかも補助色として黒を加えて4色にしています。ほとんどの絵やカラー写真も3色で成り立っていますが、例えば世界の名画、レオナルド・ダヴィンチの『最後の晩餐』にしても、黒がないとあの色調にはならないんです。色の濃度も元色の20%に薄く設定していますから、組み合わせ次第で無数の色ができ、さらにシートの色をサンドペーパーなどで削ると作れる色はもっと増えます。

## 3原色はり絵で東京発明展都知事賞 吉田茂夫さん

■吉田茂夫(よしだ・しげお)／昭和3年(1928年)7月19日京都生まれ。同志社大学を出て松竹に入社。斜陽化した映画産業のためにフィルム費節約の新技術で特許を取得して昭和40年に中曾根康弘代議士らと東洋光機株式会社を設立。団体勤務を経て定年退職を迎えコンサルタント会社(有)吉田企画を設立。特許「3原色はり絵」が2002年の発明展で東京都知事賞を受賞する。現在アイデア発明振興会相談役。著書に『消えた虹』(文芸春秋)がある。

■芳賀敏博(はが・としひろ)／えくてびあん編集人

**芳賀** たった4色のシートでこんな絵が描けるって、なんだか魔法みたいなんですけど、絵を描いたことのない主婦の方がどうしてこんな素晴らしい絵を描けるんですか？

**吉田** 専門家じゃないのでうまく説明できないのですが、絵の生命は線と色の加減で成り立っているんじゃないでしょうか。このカラーシートは元々プロのデザイナーが使う素材で色が鮮やかですから、カラーサンプルさえ参考にすれば自由に色が作れます。裏にノリが付いているので失敗しても貼り直しができますし、おおよそ貼れるものなら画用紙だけでなくガラスやタイル、そのほか何にでも描ける。イメージも広がると思うんです。

**芳賀** こういう発明をどうして思いつかれたの？

**吉田** 松竹にいましたので、カラー映画ができた頃に「3原色の原理」があることは知っていました。松竹をやめて長年ほかの仕事をしていましたから、ものを考えるヒマもなかったんですが、数年前に定年になったおかげで『消えた虹』という自分史も書けましたし、その上にこの「3原色はり絵」も考案する余裕ができたんですね。

**芳賀** いまお話に出た『消えた虹』は私も読ませていただきましたが、吉田さんが松竹時代に斜陽映画産業を救うという壮大な構想でフィルムを節約する新技術を発明して会社設立され、挫折までの波瀾万丈の1年間をテーマにした熱血漢物語でした。これが吉田さんにとっての発明の始まりなんですよ。それとも小さいころから発明が好きだったんですか？

**吉田** そんなことはありません。大学が経済学部で松竹でも経理畑でしたから、むしろ発明には縁がなかったんです。フィルムの節約を思いついたのはあく

まで資金繰りが苦しいのが動機で、それも京都から大阪の松竹に通勤する凄まじいラッシュのなかで、押されながら必死に吊革にしがみついている、偶然に考えついたものなんです。

**芳賀** それは頭が柔軟だからですよ。満員電車に乗っている人はたくさんいるけれど、そこで特許をとるようなことを考えつく人は、あまりいない。

**吉田** それだけ切実だったからでしょうね。経理を担当していて映画が斜陽になり、お金が入ってこなくなると、仕事柄真剣に考えざるを得ないじゃないですか。直営の大きな映画館でも1日にたった2万円の売上げしかなかった、ひどい時もありましたから。

**芳賀** フィルム代が節約できれば映画会社も楽になるというわけですね。

**吉田** ええ。この技術が採用されれば当時の映画5社で年間20億円くらいの節約になるはずでしたから……。通産省も支援してくれたのですが、実現寸前に利害が対立する巨大企業の妨害でその会社はつぶされてしまったんです。案じていた通りに、その後しばらくして旧大映と日活がともに倒産しました。資金に苦しむ弱い企業は大資本の圧力に歯が立ちませんからね。

**芳賀** 『消えた虹』を読んでいて、そういう非条理さはひしひしと伝わってきました。それにしても『消えた虹』とは、うまい題名をつけたものですね。

**吉田** それにはいわく因縁があるんです。会社がスタートして間もなく、作家の梶山季之氏が『虹を掴む』という小説を書きました。中曾根さんたちと一緒に会社を設立した松竹時代の仲間がモデルの小説で、その時の私と主人公の出会いがラストシーンの物語でした。おそらく梶山氏も事業が成功すると思い込んで『虹を掴む』という明るい題名にしたのだと思いますが、結果

的にその事業が失敗に終わったから、私は『消えた虹』としたんです。

**芳賀** しかし吉田さんはその後も発明を続けて、特許・実用新案を30件もお持ちとか。

**吉田** それはその当時の話でして……今はそんなに持っていませんよ。ただその頃出願しませんでした。すでにカーナビとか、つけ爪なんかも考案していたのは事実です。

**芳賀** 惜しいなあ。そんなのも特許を出しておけばよかったのに。やっぱり不思議なのはどうして次々とそんな発想ができるのかということなんですよ。

**吉田** 私がしろうとだからだと思えますよ。専門家の方はそれぞれの分野を深めて凄まじい発明をされるのですが、その反面、逆に専門知識にとらわれてしまうところもある。その点、しろうとはとらわれがないので専門家には見えない盲点に気づくんじゃないでしょうか。しろうとだから見えるアイディアって、あるんです。

**芳賀** 話は戻りますが、「3原色はり絵」の方はどうなんですか？

**吉田** おかげさまで昨年秋に商品化する前にNHKの「おしゃれ工房」などで放送されたり、新聞やテレビ東京などでも紹介していただき、「都知事賞」までいただいて、恵まれたスタートでした。現在もNHK文化センターの青山と仙台の教室で新しく10月からこの講座を設けていただきますし、幸運にも東急ハンズやユザワヤなどのほぼ全店の画材売り場で取り扱っていただいています。立川で生まれた画材ということで、南口諏訪通りの紙匠「雅」さんでも扱ってくださって、心から感謝しています。

**芳賀** われわれとしても、立川生まれの新発明が全国や世界中に羽ばたくのを楽しみにしています。

上砂町	fresh shop スーパーはしもと	上砂町3-2-1 536-2331
栄町	多摩中央信用金庫 栄町支店	栄町2-59-8 536-9711
	いなげや 立川栄町店	栄町3-7-1 523-7201
	やきものギャラリー 陶庵	栄町4-18-1F 528-7761
	手打ちそば 倍更	栄町5-12-1 537-0991
	相模屋 酒店	栄町5-61-8 536-2476
幸町	メンズカット ヤザワ	幸町5-61-31 536-8738
	森田 接骨院	幸町6-6-25 535-6240
	いなげや 立川幸店	幸町1-23-6 537-1820
	中華レストラン SANFUJI	幸町2-3-5 536-3813
	超こってりめん パワー軒	幸町2-35-3 535-1665
錦町	お菓子処 花奴万葉庵 すずかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
	至誠キートスホーム	幸町4-14-1 538-2323
	とんかつ・割烹 かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
	和洋菓子 たちばな	幸町5-2-16 537-0347
	BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912
錦町	古楽の小屋 ロバハウス	幸町6-22-32 536-7266
	めがね・つけい補聴器 カワハラ	錦町1-1-25 525-4427
	御菓子司 やな瀬	錦町1-3-12 522-3969
	宮地楽器 MUSIC JOY 立川南	錦町1-3-21 524-1332

えくてびあんの輪

人があて、街があります。  
あなたがあて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えくてびあん！  
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は上砂町・栄町・幸町・錦町のお店です。

錦町	中国料理 五十番	錦町1-4-5 522-7472
	手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店	錦町1-4-28 524-3190
	new gyoza 1059 餃子天国	錦町1-5-6 526-2283
	中国気功整体院 立川院	錦町1-5-22 529-1088
	ステーキレストラン リブレ	錦町1-8-3 527-1630
錦町	和菓子処 ゆうき	錦町1-8-5 525-0780
	ザ・クレストホテル立川	錦町1-12-1 521-1111
	美容室 アリス	錦町1-15-21 525-1100
	パンと洋菓子 うちのやブルマン	錦町1-18-7 524-9280
	駄菓子・ファンシー むぎぼたけ	錦町2-1-1 526-0210
錦町	海が見えるカフェ シーマンズ	錦町2-1-1-2F 523-7407
	美容室 FALCO	錦町2-1-10 528-2389
	諸官公庁御用達・日用雑貨 池田屋	錦町2-1-10 522-3731
	手打ち 更科もとおか	錦町2-1-27 528-2345
	しゃぶしゃぶ・鍋料理 しゃぶ・りん	錦町2-1-33 527-2228
錦町	スペイン料理 TAPAS	錦町2-2-29 529-0733
	Bakery Cafe Crown	錦町2-4-2 526-2226
	三田花店本店	錦町2-5-23 524-4187
錦町	にしやま薬局	錦町2-7-8 525-9212
	アミューたちかわ	錦町3-3-20 526-1311



# 凛々しく、強く。

## かおり 香織さんの空手道

小池香織さんは立川市立第八中学校に通う三年生。  
ひとたび胴着を着て黒帯を締めると、  
まだあどけなさの残る明るい中学生から、空手選手の厳しい顔になる。  
昨年、今年と東京都大会で形競技優勝。  
今年は組み手競技でも準優勝を果たした。

空手を始めたのは小学校に入っすぐ。次兄で高校時代に  
国体3位入賞している英斗さん（現駒大）の影響や、周りの  
友だちに誘われてだったという。小学時代にはそれほど目立  
つ活躍はなかったが、中学生になってめきめきと頭角をあら  
わしてきた。

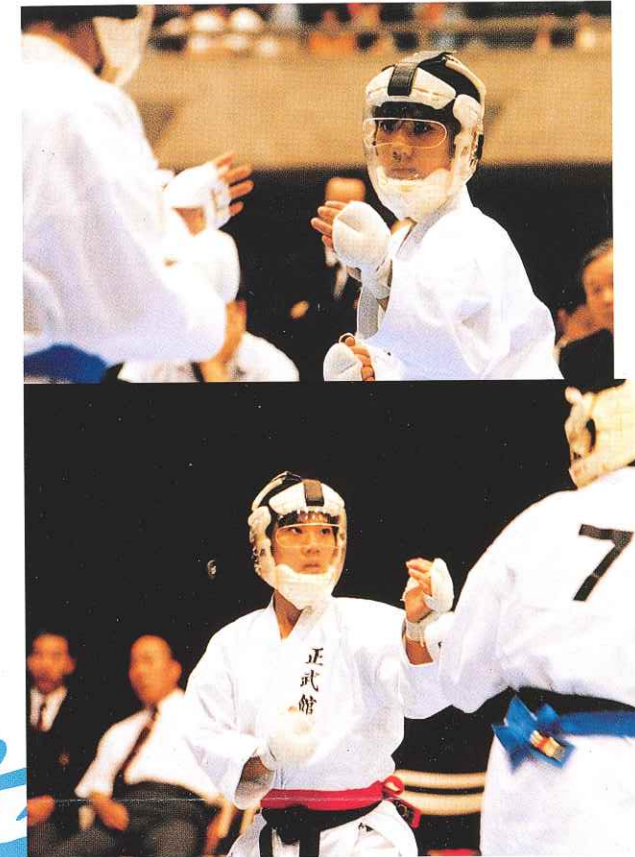
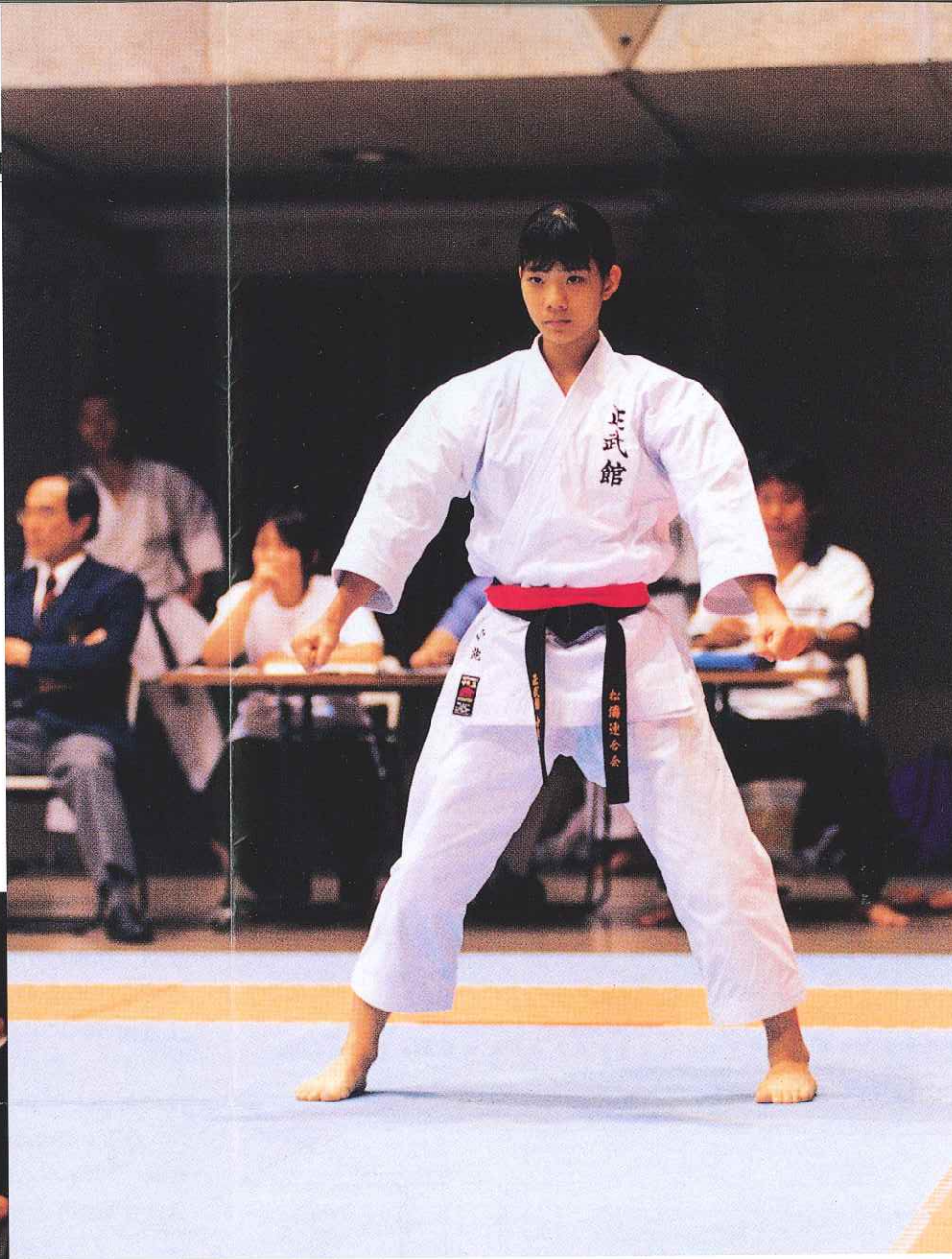
一年生で出場した一昨年の東京都小・中学生空手道競技大  
会で形競技準優勝、昨年は優勝して今夏札幌市で開かれた全  
国大会にも出場した。今年の都大会では形、組み手両競技で  
決勝戦に進み、完全優勝はできなかったものの形では堂々の  
二連覇。

香織さんが通う松壽会正武館の道場は玉川上水天王橋に近  
い一番町にある。稽古日の夕方には小学生から高校生までが  
集まる。館長の篠田正光さんの人柄からか、礼に始まり礼に  
終わる折目正しさのなかに和気藹々とした雰囲気。今年の  
都大会では香織さんを含めて形競技で3名が優勝、組み手競  
技では優勝1名、2名が準優勝した。

足の裏のマメをいくつともなくつぶしながら仲間と一緒に  
がんばってきた中学最後の夏は終わった。だが、さらに凛々  
しく強く——香織さんの空手道は未来へと続いている。



8月17日決勝大会が行われた東京武道館で



演武を競い合う形競技と防具をつけて対戦する組み手がある



たくさんの人賞を果たした道場仲間と



試合を見守る篠田正光館長



正武館道場での稽古では小学生や男子とも組む

# 空手道



立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

多摩ではこ  
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩ではこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじうらくがじょう

スカパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分  
午後7時15分～7時30分  
再放送/火曜 午前9時～9時15分  
午後7時45分～8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十六年

真如苑

柴崎町1-2-13 TEL. 527-0111(代)

雑誌・書籍・地図・政府刊行物・教科書・文房具・事務機

オリオン書房

■ルミネ店 (立川ルミネ7F) TEL 042-527-2311  
■サザン店 (グランデュオ下サザン2F) TEL 042-525-3111  
■立川北口店 (第一デパート3F) TEL 042-523-3311  
■ノルテ店 (パークアベニュー3F) TEL 042-522-1231  
■高島屋店 (高島屋立川店8F) TEL 042-526-3131  
■TSUTAYA立川柏町店 (柏町すずかけ通り) TEL 042-534-1311

http://www.orionshobo.com

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……  
いろいろなコミュニケーションがあります。  
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、  
行っている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから  
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING  
PROCESSING・PRINTING  
大廣社  
042-527-1911  
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13  
東京都立川市錦町5-17-13  
FAX. 527-1948  
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

## 秋はクラシックで ——TMMコンサート

10月25日午後2時から、立川駅北口カーロ  
ホールでTOUCH Music Music 実行委員会  
主催「TMM CLASIC CONCERT 2003」が  
開催されます。3部構成で、第1部は「オペ  
ラを愉しもう」、第2部はビートルズナンバ  
ーや童謡など親しみやすい曲目を、第3部  
は弦楽四重奏。若手音楽家の演奏で秋のひ  
とときを楽しんでいただきます。当コンサ  
ートに30組60名様を無料招待します。ご  
希望の方は往復ハガキに、住所、氏名、年  
齢、電話番号、ご同伴者1名の氏名、年齢  
を明記の上、下記までご応募ください。厳  
正な抽選のうえ当選者には招待状の発送を  
もって発表にかえさせていただきます。10  
月15日消印有効。

■応募宛先

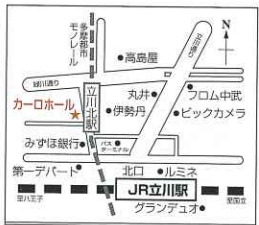
〒190-0012

立川市曙町2-17-5

杉田ビル3F

TMMクラシック

コンサート係



## 祝！ 細江英公氏 特別勲章受章

えくてびあん「表  
紙の人」を撮り  
続けている細江  
英公氏に英王立  
写真協会 (Royal  
Photographic  
Society) から特  
別勲章が贈られ  
ることになった。  
同協会が創立150  
周年を記念し「生涯にわたって写真芸術に  
大きく貢献した写真家」として7人の写真  
家を選んだもので、9月18日ロンドンで開  
かれた記念式典で授与された。受賞作家は  
細江氏のほか、リチャード・アヴェドン  
(アメリカ)、ウィリアム・エルグストン  
(アメリカ)、リー・フリードランダー (ア  
メリカ)、デイヴィッド・ホックニー (イギ  
リス)、ドン・マッカラン (イギリス)、ゴ  
ードン・パークス (アメリカ) の各氏。心  
からお祝いを申し上げます。



## ◆ タチカワ誰故草 ③ ◆ こんなか細い私だけれど

森 忠明

「『いったい、この国はどうなっちゃったのか!』(NHK出版)  
という本を読んでいたら、著者の一人である斎藤貴男氏が「ジャ  
ナリズムの世界に自分自身が身を置いていて、こゝろが嫌になっ  
てきた。どこか海辺か湖畔の小屋にこもって、くだらない世の中目  
もくれば幼児向けの童話など書きながら、仙人のように暮らしたい  
と発言しておられたので、分かるなあの気持ち、と首肯しつつも  
「問題が二つあるぞ」と呟いた。  
まず、仙人のようにでは駄目なんであって、  
ホンモノの仙人にならないと、ホンモノの神  
性や魔性を保真している幼児のお歯に合わず、  
「この作者はどうなっちゃったのか?」とか一  
蹴されてしまうだろう。そもそも文学の最高  
峰にある幼年童話は、おいそれ者が軽装で登  
れるジャンルではないのである。  
もう一つの問題は、海辺か湖畔での執筆は  
思いのほか難しいということだ。恥ずかしな  
がら私の場合、北海道の湖畔も九州の海辺も  
淋しすぎ静かすぎ、一行も書けずに帰ってきたのだった。相模湖畔  
の宿でも不能。やはり、タチカワの賑やかさからはぐれた私は、  
徒者でしかないようだ。  
娘がお世話になった富士見保育園の運動会やおゆうぎ会、市民会  
館での児童画展などへ「取材」に行き、今を生きている子どもたちの圧倒  
的な命の輝きに、鍔太刀のサビを落とすつもりが、それが絶対に必要。  
高島屋と伊勢丹のトイレは清潔だし、適度の店内放送と音楽がヒ



挿画：野崎義成

ラムキのきつかけになったりするので、詩歌や童話づくりの場とし  
ては一級だと思ふ。しかし、困るのは、用を足し終えた人が使うジ  
ェット・タオルなるものの轟音だ。米軍基地時代の爆音で、けたた  
ましいノイズ類には慣れているはずの私も、あの音には心悸亢進  
して吐き気を催す。  
ルミネ1Fのハンド・ドライヤーには「Eco-Friendly」とあるが、  
フレンドリーと呼ぶには程遠い代物なので、製作会社三菱電機のお  
客様相談センターに電話相談した。すると感  
じのよい男性がでて、  
「ザックリした説明ですみませんが、あれは  
毎年の苦情ナンバーワンでして……今後騒  
音化に努力します」とのこと。「小糸工業株  
式会社のクリーン・ドライは静かですよ」  
皮肉ではなく、参考意見を述べておいた。  
先の斎藤氏によれば、「社会ターウィニズ  
ム」や「ネオ・ファシスト」が、私のような  
弱者を差別している現代——トイレのドライ  
ヤーの音ごとくに参っているような、か細い精神では、さまざまの  
迫害者とタタカウことはできないだろう。  
一昔前、たしか八代重紀氏が、  
「こんなか細いわたしだけれど  
愛することは負けないわ  
と唄っておられたはずだが、か細い(182cm、63kg)私は、日々  
愛する力もタタカウ意志も弱まっているようなのである。」

この人この店 ③

## レストラン サラ sarah

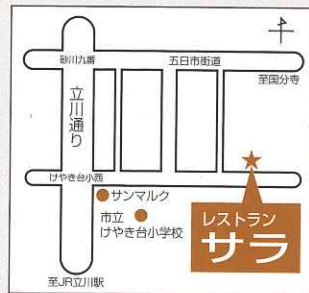
代表 紀平容子さん

「自分たちが歳をとったときに、  
安全な食事が食べられる店が身  
近にあったらいいな」。地域の女  
性たちが集まり「高齢社会の食  
と職を考えるチャンプルーの会」  
(NPO法人、代表：紀平容子さん)  
を結成したのはこんな想いから  
だった。そして平成11年、可能  
な限り安全で栄養のバランスのとれた食事を提供するレストラ  
ンをオープンさせた。  
無添加の調味料や地場栽培の有機野菜などを使用、味付けも素  
材の味を活かすため、できるだけ薄めに。どこか昔なつかしい  
味わいに、こころ癒される食事をたのしむことができる。  
その他、主に高齢者に向けてのお弁当の宅配サービスや、毎週  
木曜日の「2時のおしゃべり会」と題したスペース開放、ギャ  
ラリーとして無料貸し出しを行うなど、レストランという枠を  
越え幅広い活動を展開中。訪れた人たちの心のつながりを大事  
にする雰囲気が、心までも元気にしてくれそうなお店だ。

「高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会」HP <http://members.jcom.home.ne.jp/npo-sarah/>



調理スタッフのひとり、  
大松澤美千代さん



〒190-0001  
立川市若葉町1-10-1  
TEL 042-534-0602  
営業時間 AM11:00～PM6:00  
定休日 日曜日



店内



日替わり定食 (850円)

表紙の人

伊佐 雄治さん(羽衣町)

伊佐雄治さんはリトグラフの手法で  
版画作品を制作する版画家。リトグ  
ラフに限らず版画は複製可能なが  
本来の特徴だが、伊佐さんの作品は  
あえて1点のみの制作。ひとつと  
つの版に複雑な手を加えられた作品  
は、時間にさらされ風化したような  
質感が印象深い。大学教授として学  
生の指導にあたりながら、自ら「負  
の芸術」と呼ぶ版の探求と精力的な  
発表活動を続けている。

立川市羽衣町の自宅近くで  
写真：細江英公

かたこと

長雨に低温、台風と、ままならない気候  
に振り回された夏でした▼創刊20周年  
記念パーティーも台風の影響の残るなか  
たくさんの方にご出席いただき無事に終  
えさせていただきました。ありがとうござ  
いました▼本号がお手許に届く頃には  
すっかり秋のたたずまいになっているで  
しょう▼秋といえば食欲とか芸術とかい  
ろいろな冠がつけられますがスポーツの  
秋でもあります。今月のVIEWは、構え  
ただけで周りの空気まできりと引き締  
まる空手選手、小池香織さんをご紹介し  
ました。来春は高校生。これからも声援  
を送ります▼対談をさせていただいた発  
明展都知事賞の吉田茂夫さんは失礼なが  
ら70代も半ばとは思えない若々しさに  
圧倒されました。定年後の長い期間をど  
う生きるかは重要なテーマですが、常に  
明るく、チャレンジを続けられるってす  
ばらしい▼8月から新連載がスタートし  
た森忠明さんのエッセイ「タチカワ誰故  
草」が絶好調です。洒脱なかにピュ  
アな心が伝わってくる森さんの文と野崎  
義成さんの挿画のハーモニーをお楽しみ  
ください。(賀)

スタッフ

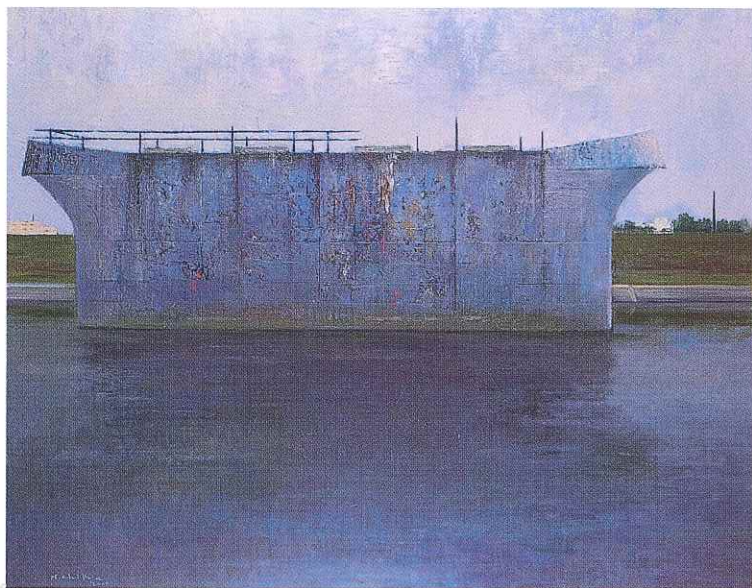
編集 大久保清志/清水恵美子/杉山清純  
中薫子  
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 五来孝平/中村 伸

えくてびあん (C) 10月号

第22巻 通巻227号  
平成15年10月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 潮尾勤三  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。





### 「橋脚」

2000年 100F

日野橋から高速道路多摩川橋を経て府中四谷大橋との間に、今は新しい橋がかかっている。その橋脚だけが立っている状態が五、六年ほども続いていた。軍艦のような形の打ちっ放しのコンクリート塊も、何年かするうちに表面が汚れサビが浮かび、コケが生え、自然の中に少しずつなじんでくる。描いてみようと思っただけは五年目くらいだろうか。

当初は見慣れた風景のなかに突然現れた異質な人工物に驚き、違和感を感じていただけだったが、いつまでも孤独に、しかし毅然と川の水の中に立っている姿に親密な感情を託せるようになった。

「愛慕」と呼んでいいのかもしれない。この作品では日野側の正面やや斜めから国立方向を描いている。描きながら、この橋脚はいつまで未完成のまま立っているんだろう？ 橋が完成したらその上をどんな人や車を通るんだろう？ 架空のドラマを思い浮かべていたものだ。

物言わぬコンクリートのようなものにも〈人生〉がある。わずか五年ほどでも表面には風雨にさらされた歴史が刻まれている。何度も通い、私自身の気持ちとそれが重なり合ったとき、絵にならないような対象が〈風景〉となって現れるのだから。